

週間市場レポート (2022年5月9日~5月13日)

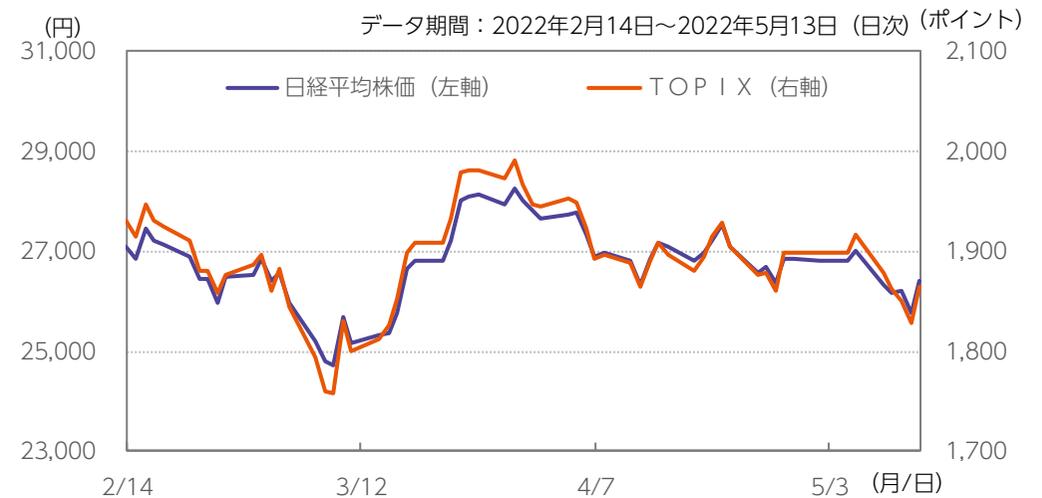
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/5/6	先週末 2022/5/13	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,003.56	26,427.65	▲ 2.13 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,915.91	1,864.20	▲ 2.70 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		32,899.37	32,196.66	▲ 2.14 ↓
S&P500種指数		4,123.34	4,023.89	▲ 2.41 ↓
ナスダック総合指数		12,144.66	11,805.00	▲ 2.80 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,629.17	3,703.42	2.05 ↑
S&P/ASX300指数		7,200.39	7,061.31	▲ 1.93 ↓
上海総合指数		3,001.56	3,084.28	2.76 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)*		831.94	815.70	▲ 1.95 ↓
東証REIT指数		1,993.30	1,971.75	▲ 1.08 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		853.64	825.40	▲ 3.31 ↓
ASX300 REIT 指数		1,513.80	1,474.70	▲ 2.58 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		200.77	195.62	▲ 2.57 ↓
日本10年国債 (%)		0.244	0.246	0.002 ↑
米国10年国債 (%)		3.127	2.919	▲ 0.208 ↓
ドイツ10年国債 (%)		1.132	0.948	▲ 0.184 ↓
英国10年国債 (%)		1.995	1.744	▲ 0.251 ↓
ドル/円		130.56	129.22	▲ 1.03 ↓
ユーロ/円		137.71	134.55	▲ 2.29 ↓
英ポンド/円		161.21	158.45	▲ 1.71 ↓
豪ドル/円		92.39	89.67	▲ 2.94 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,982.06	2,970.37	▲ 0.39 ↓
WTI原油先物 (ドル)		109.77	110.49	0.66 ↑
CRB指数		311.32	308.58	▲ 0.88 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。米連邦準備制度理事会（FRB）による急速な金融引き締めへの警戒感から、前週末に米国株式市場が下落した流れを受け、週初より主力株を中心に幅広い銘柄が売られ、12日（木）までの下落幅は1,200円超となりました。4月の米消費者物価指数（CPI）は市場予想をやや上回ったものの、目先の材料出尽くし感から米長期金利の上昇がやや一服し、急速に相場下落が進んでいた反動から自律反発狙いの買いが入ったことや、国内企業の好決算を受け、週末は大幅上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。インフレ懸念などを背景に、米長期金利が前週末におよそ3年半ぶりに3.1%台まで上昇した流れを受け、週初は上昇しました。4月の米CPI発表後は材料出尽くし感から上昇は一服し、週末は米景気の減速懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる債券は買われました（利回りは低下）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

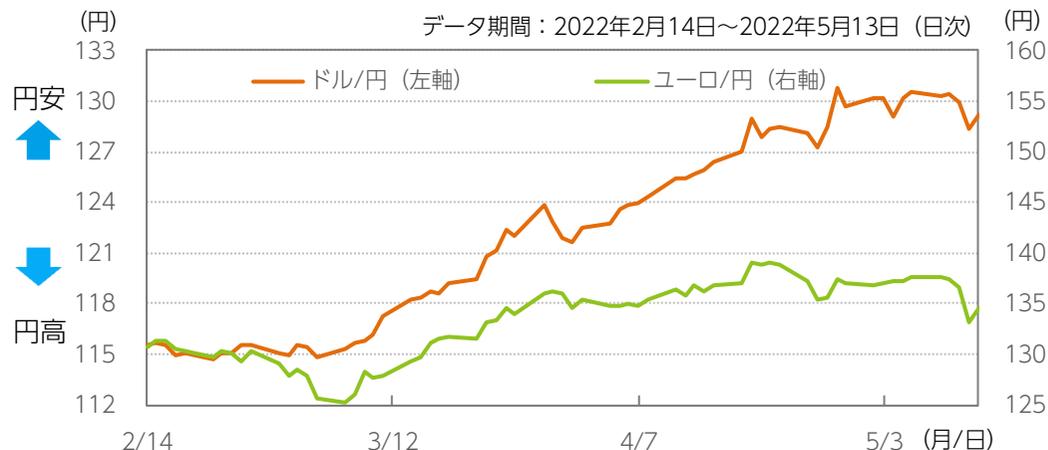
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。週中に4月の米CPIの発表を控え、インフレ対策のためFRBが急速な金融引き締めを行うとの懸念から週初より下落しました。CPIでは、中古車などの一部に物価上昇の落ち着きが見られたものの、市場予想を上回ったことから、12日（木）に年初来安値を更新しました。週末は、これまでの急ピッチな下落を受け売られていたハイテク株を中心買われ大幅上昇したものの、週間では前週末比で下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。週中に4月の米CPIの発表を控え、FRBの急速な金融引き締め観測から円売り米ドル買いが進行しました。週末にかけて、足元で急速に円安が進んだため、持ち高調整の円買いや、4月の米CPI発表で材料出尽くし感から米長期金利が低下すると、日米金利差の縮小を見込む円買い米ドル売りが進みました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、FRBによる急速な金融引き締めへの警戒感から、日米両市場ともに下落しました。

11日（水）に発表された4月の米CPIは前年同月比+8.3%となりました。前月の同+8.5%から上昇幅を縮めたことから、上昇率はピークを迎えつつあるとの見方が出ているものの、住居費などの上昇圧力は依然強く、引き続き物価の押し上げ要因となることが予想され、当面は伸び率の高い状況が続きそうです。FRB理事からは、次回6月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で0.5%の利上げが適切との発言が相次いでいるものの、高いインフレが続く場合、FRBはインフレ抑制のため、大幅な利上げを継続する可能性もありそうです。

今週の株式市場は、日米の企業の決算発表が概ね一巡し、やや材料難となるなか、引き続き米国の急速な金融引き締めへの思惑から不安定な展開が予想されます。ただし、先週の下落幅は大きく、下値では押し目買いが株式市場の支えとなりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>